

阿 多 多 羅

第100号
発行
令和5年7月28日
責任者
福島県公立学校
退職校長会安達支部
伊藤末吉

【巻頭言】

続ける意義と楽しさ



支部長 伊藤末吉

支部会報「阿多多羅」が今回

で第一〇〇号となりますこと、
会員の皆様と共に喜び合いたい
と思えます。何ごとも継続する
ことは大変で、それに携わった
先輩諸兄の努力や苦勞を思うと、
感謝と本会報の意義を実感しま
す。私が本会に入会した平成二
十年の会報第五十五号には、故
遠藤秋男元支部長が「万緑の中
や吾子の菌生えそむる（草田
男）」で始まる巻頭言で、二年
後の県大会二本松大会の予定に
言及しています。遠藤先生の用
意周到な人柄が偲ばれます。

ここでは、『続ける意義と楽

しさ』について、私の感じてい
る思いやささやかな体験を述べ
てみます。

私は『支部会報のファイル』
を、自宅の洋間に置いています。
私は読書が好きで、読書をしな
い日はありませんが、読書に飽
きると支部会報の綴りを手に取
ります。そこには会員各位の
様々な体験や思いが綴られてい
て、それらを読むことで、私の
生活や行動の新たなエネルギー
となります。このように、支部
会報の綴りは、私の生活の糧と
なっています。また、私が加入
している本会グループ活動の
『フォトαクラブ』では、各人
が趣味や研究で得た写真や俳句、

郷土資料などを持ち寄り、
発表し合っています。こ
のような継続活動は、会
員の創作意欲を高め生活
を彩り、退職後の生活で
は必要な機能と大事にし
ています。ところで、私

が退職後に続けていることの
一つに、『図書館の利用』があり
ます。毎回、県立図書館からは
七冊、市立図書館からは五冊を
借りています。借りた本を通覧
できるように、画集や写真集、
童話や絵本などの冊子を常に加
えます。最近の図書館は、高齢
化社会に併せ大活字の本が多く、
推理物や時代小説も多様にあり、
豊かな読書体験ができると喜ん
でいます。

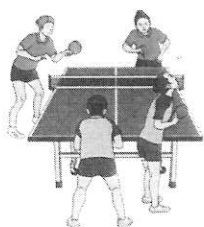
次に私が心がけていることは、
高校時代に進路選択で断念した
『美術への関心』です。自作の
評価は低いのですが、地区文化
祭や県水彩展、上野の森美術館
主催の美術展などに出版し続け
ています。作品づくりの楽しさ
は、評価はともかくスケッチや
観賞のためのドライブや小旅行
を計画し、県内外や東京方面へ
適した季節に実行することです。

しかし、これらの創作活動は、
『地域の文化活動』とも関連し、
行事や会合なども多くなり、生
活の目標にも負担にもなるので
注意が必要です。

退職後に留意したいことの
一つは健康で、体力を維持させる
ことは難しいものです。私は、
現職時に卓球部顧問をしていた
ことで声がかかり、地域の『ラ
ージボール卓球クラブ』に加入
しました。クラブは週二回午前
二時間の活動ですが、私は現職
時と同様に体育館で往復十回の
ランニングから始め、地域の皆
さんと心地よい汗を流していま
す。

以上のことが、私の『続ける
意義と楽しさ』の主旨です。今
年度総会で支部長を再度仰せつ
かり、私の新たなプレッシャー
となりました。次年度は『退職
校長会福島県大会』が本地区で
実施されます。支部組織全体で
対応し、県大会を成功させたい
と思えます。

よろしく
ご協力願
います。



【特別寄稿】一〇〇号に寄せて

会報創刊時の思い出

小島 喜一

顧みますと、私は平成元年四月本会に入会いたしました。同時に、高校の代表者として副支部長を仰せつかりました。ときに支部執行部は支部長小松茂吉先生、副支部長小澤安治先生、中村昌幸先生、事務局長佐久間文二先生、庶務三田和夫先生、会計杉内豊徳先生でありましたが、このように優秀な大先輩がおられたので私は専らご指導をいただいております。

ところで、会報「阿多多羅」創刊号は平成二年六月十五日発刊されましたが、厳しい財政事情で予算措置もありませんでした。しかし、佐久間文二先生は小松支部長の意を体して手作りで刊行されました。会報の題字は安達太良地方のシンボル安達太良山と決め、書体は高村光太郎の詩碑から拝借しました。ワープロ、ファックス印刷であります。活版印刷に匹敵する出来栄であり、年三回発行いたしました。会員待望の会報発行は佐久間先生の熱意と創意工夫の賜でありました。今、会報「阿多多羅」第一〇〇号発行にあたり、創刊当時支部執行部にあった者として感慨無量であります。厳しい財政事情の中にあつて、手作りの紙面作りを続けられた佐久間先生に対して、改めて敬意と感謝を表する次第であります。

事寄せて

久保 恒義

本紙第一〇〇号の発行に際して執筆依頼があり、脳裏を過つたのは世阿弥が多用した言葉であつた。一つは「初心」である。これは風姿花伝の「二十四五」の項で「初心と申すはこの頃のこと」と述べている。

それから二十五年後に著した「花鏡」でその意味を広げて書き直している。「初心忘るべからず」に続けて、①是非の初心・・・、②時々の初心・・・、③老後の初心・・・の三項に分けて記している。

①はすでに芸の道に入つて修行を積んでいる段階での未熟さを世阿弥は「初心」といつているが、ここではそれを強調している。②は初心の年齢から年盛りを経て老後に至るまでに修得してきた芸を忘れてはいけないということである。そして、③では初心は未熟な年齢の者だけに限られるものではなく、各年齢にふさわしい芸を修得した者にもあり、限りなく積み重ねられるものである。したがつて老後にも初心はあるというのである。

もう一つは「花」である。風姿花伝第七別紙口伝に「住する所なきを、まづ花と知るべし」とある。つまり同じ境地に停滞せず常に新鮮な芸を表現するためにあらゆる演技を修得し、いつでも引き出せるのが「真の花」だということである。

思い出に浸りながら

石川不二雄

当安達支部が創設されて今年で五十九年目。会報がついに第一〇〇号に達しました。おめでとうございます。

顧みますと、私が会報「阿多多羅」に直接関わつたのは今から二十年前、現職校長最後の年に第三十六号に「随想」というか、雑感的な拙稿を載せて頂いたのが最初でした。第四十号には、私ども退職者三名がそれぞれ「新入会員」の挨拶文を掲載して頂きました。その頃に、現在のような年三回発行の流れが定着したようです。

これまで担当された理事の方々のご労苦に改めて感謝し敬意を表す次第です。二十年前、その頃は、校長を退いたら退職校長会に入るのは当然で、むしろ喜んで入会したような気がします。

当時、役員会や総会の会場は、二本松駅から徒歩五分程の「割烹田むら家」でした。懇親会は広い座敷に一人一人の高御膳で、四十名ほどがズラリ並ぶと壮観の感があつたのを覚えています。それがまもなく小さい所にあつた「五柱かねすい」に移り、やがて「パレスかねすい」「二本松御苑」となつていきました。

そんな変遷をたどり、懐かしい思い出に浸りながら、この稿を閉じます。

令和五年度（第五十九回）

安達支部総会を開催

令和五年度退職校長会安達支部総会は、四月十五日（土）四十一名の会員の出席のもと、二本松御苑を会場に開催された。

開会に先立ち、この一年間に亡くなられた本会会員四名の方々のご冥福を祈り黙祷を捧げた。

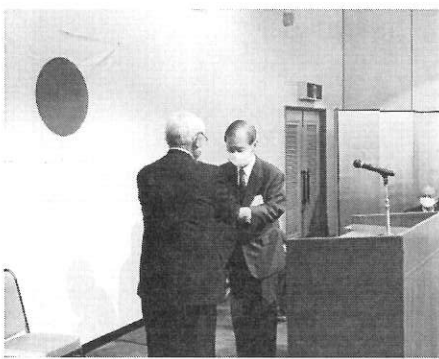
松浦健二副支部長の開会のことば、国歌斉唱（CDを流すのみ）の後、伊藤末吉支部長の挨拶では、これまでの各種支部事業への支援協力に対する感謝のことばを述べるとともに、本支



伊藤支部長の挨拶

部長寿会員六名様や全連退賀詞会員五名様へのお祝と新入会員六名様への入会歓迎のことばがあった。さらに今年度は、コロナ禍も緩和されつつあるので今まで以上に充実した活動を展開していきたいと話し、挨拶を終えた。

次に、本支部長寿会員六名の方々（服部覺悟様・佐藤正之様・前田長様・伊藤正様・添田和良様・佐藤邦英様）の紹介があり、ご出席された前田様、伊藤様、佐藤（邦）様にそれぞれお



長寿会員への祝い金贈呈

祝い金が贈呈され、三名の方よりご挨拶をいただいた。さらに、本年度の新入会員六名の方々（草野和代様・紺野真一様・鈴木浩記様・原田真一様・安田浩明様・三津間勝彦様）の紹介があり、ご出席された草野様、紺野様、鈴木様よりご挨拶をいただいた。



新入会員の方の挨拶

続いて、小林淑人氏が議長に選出され議事が検討された。

一、令和四年度事業（会務）報告

二、令和四年度会計決算報告、監査報告（監事代表の小松佑氏が報告）

三、令和五年度事業計画（案）

四、令和五年度会計予算（案）

五、令和五年度役員組織

六、令和六年度公立学校退職校長会二本松大会の原案
七、その他



本年度の総会の様子

議事内容は全て承認され、最後に、事務局長より諸連絡（研修会略歴、教育懇談会略歴、文書・会報等配付及び連絡網の確認、会員名簿、「私の履歴」、令和五年度県退職校長会郡山大会参加について）を行った後、佐藤英之副支部長が閉会のことばを述べ総会が終了した。

例年、総会終了後に懇親会を実施していたが、昨年度に引き続き感染防止のため実施せず、「折詰料理」をテイクアウト（持ち帰り）していただいた。

県退職校長会郡山大会参加

六月十四日(水)に第五十七回福島県公立学校退職校長会郡山大会が、郡山ビューホテルアネックスで開催された。

本支部からは、次年度二本松大会開催を踏まえ、視察を兼ね役員含め十名で参加した。

四年ぶりの通常開催による県大会となり、各支部から総勢二百五十名が参加した。

開会式では、式に先立ち物故会員への黙祷、開式のごは、国歌斉唱のあと、福士寛樹会長挨拶、郡山支部長の工藤博大会実行委員長挨拶と続いた。さらに、来賓挨拶では、福島県教育委員会教育長様(代理・斎藤仁道県中教育事務所長)と郡山市長品川萬里様より挨拶をいただき、来賓紹介、祝電披露と続き開会式は終了した。

その後、「近代日本の礎 安積良斎」と題して、安積国造神社第六十四代宮司の安藤智重様による講演会が行われた。



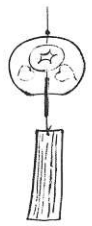
講演会の様子

安積良斎は、安積国造神社の第五十五代宮司の安藤親重の三男として生まれ、後に幕末の朱子学者として名声を高め、良斎に学んだ門人には、吉田松陰、高杉晋作、岩崎弥太郎など二千人以上いたそうである。二本松藩校敬学館の教授も務めたそうである。良斎は、朱子学だけでなく当時危険視されていた陽明学など、他の学問や宗教も摂取した新しい思想を唱え、外国事情に詳しく、近代日本の思想や教育、文学へ大きく影響を与え

た人物だったということ、福島県の身近なところに偉大な歴史人がいたことに感動を覚える講演会だった。

その後の昼食では、会場にある大きな二つのスクリーンで、郡山市の紹介ビデオが流された。

午後には三支部からの体験発表が行われた。まず福島支部の宍戸仙助氏は、認定NPO法人の理事長として、海外(特に東南アジア等の途上国)支援活動を中心に、学校設立や講演活動を精力的に行っているという発表があった。次に南会津支部の小林宗一氏から、日本遺産「御蔵入三十三観音」の取材を通して、なぜ奥深い南会津で戦国期から幕末にかけて、伊達政宗軍との戦いや戊辰戦争での東軍・西軍との激しい戦いが起こったのか、それは、南会津(旧伊南村・南郷村・只見町)が、下野街道、沼田街道、八十里越峠、六十里峠など交通の要所であつ



たからという興味深い発表があった。最後に相馬支部の吉田雄二氏から、就労継続支援事業所を運営する立場で、支援活動の実際や事業所の抱える課題等について具体的な発表があった。

その後、坂爪靖夫大会事務局長が「大会宣言」を読み上げ、閉会式となり、次期開催支部である本支部伊藤末吉支部長から挨拶があり閉会となった。

次年度の二本松大会に向け、今回の視察を活かし準備にあたっていききたい。



安達支部から参加した10名

第一回研修会

地域社会を活かす人々
「塩松領石川分」の成り立ち

六月十七日(土) 十時より、二本松文化センター研修室において、会員三十四名の参加のもと、今年度第一回の研修会が行われた。

本支部会員である講師の日下部善己先生は、昨年「ふくしまの地域社会を活かす人びと」陸奥『塩松領石川分』の成立と展開」の著書で「福島民報出版文化賞正賞」を受賞されたが、今回の研修会テーマはまさにこの内容で、たいへん興味深い講演となった。

日下部先生は、戦国時期における地域社会の諸相や特色、その範囲や成立の事情、さらには戦国期伊達氏と相馬氏の境目の地に成立・発展した「塩松領石川分」の研究・分析を踏まえて、国・郡境や大国の狭間に形成された地域社会の実態を深く考察されてきた。それを踏まえ今回

講師 日下部 善己様

の講演では、ご自身の地元の戦国期における百目木城主「石川弾正光昌」に焦点をあて、奥州石川氏の成立と塩松石川氏の誕生、そして両属の将「石川弾正光昌」の登場から、塩松石川氏の政治・軍事拠点となった時代、そして、戦国の城下から百目木宿・市場として繁栄した時代、さらには、塩松石川氏が残した文化的遺産と地域社会の人びととのつながりなど、スライドを用いながら丁寧にわかりやすくお話しいただいた。



研修会参加者の感想

歴史のピースを見つけるために

小林 雄一

講演後、〃村人がつくった城が在る〃ことを初めて知りましと告げると、日下部先生は「百姓は強いんだ。」と話されました。

〃百姓は強い〃これは、自分が携わった『二本松の戊辰戦争』を編集していた時にも強く感じました。

『二本松の戊辰戦争』の第一章に福島大学の小松賢治先生は、「幕府に課された仕事を忠実にこなすためには、お金が必要です。そのお金の多くは、藩領の村々から強制的に借りることで賄われました。・・・安政五年(一八五八)に富津台場経営を命じられた時には、翌年に藩領から八六七五両を・・・文久三年(一八六三)年一〇月からの京都警衛にあたっては五万両を・・・慶応元年(一八六五)の二日目の京都警衛に当たっては六万五三〇〇両を、それぞれ藩領の村々から強制的に借り上げました。」その後起きた戊辰戦争でも、合わせて四万八〇〇

〇両を強制的に借り上げたと言われています。このことと、日下部先生がおっしゃった〃百姓の強さ〃とは時代も質も異なりますが、武士たちはこのような百姓たちの強さによって支えられていたと改めて思いました。

地元の歴史を調べていくと、しだいに歴史のパーツどうしが結びつき、ストーリーが見えてくることがあります。さらに結びつきが大きくなると、教科書で習った歴史とつながり、歴史のおもしろさに気づかされます。先生が示された資料、石川弾正光昌と周辺大名の図のように、また、史資料の調査の過程で、ジグソーパズルのようにピースがはまることありますが、このピースに出会うためには、ただ待っているはいけないことも気づきました。石川弾正の次男、三男の子孫の方と先生がつながることができたのは、先生が積極的に地元の歴史を調べ発信し続けたからこそではないかと思いました。私も歴史の新たなピースを見つけることができよう、史資料と向き合ってきたいと強く感じる事ができた貴重な時間でした。日下部先生ありがとうございました。

叙位叙勲受章会員紹介

◇ 従五位

武田 昭三様

(令和五年一月三十日ご逝去)

◇ 従六位

二瓶 洋一様

(令和五年三月八日ご逝去)

高齢者叙勲受章会員紹介

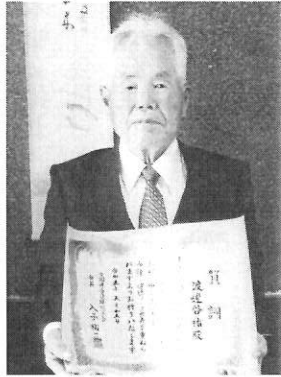
◇ 瑞宝双光章

佐久間 正様

(元本宮第一中学校長)

全退連賀詞会員の紹介

渡邊 啓祐様



鈴木 正宏様



会員随想

「百の頂きに百の喜びあり」

深田久弥)

鈴木 則雄

あるとき、私が「登山が楽しくてしようがない」と言うとき、学生時代の同級生から、「あんな苦しみだけの登山のどこがいいのか。登山は嫌だ。ゼツタイ登らない。」と言われてしまいました。

イギリスの登山家、ジョージ・マローリーは「どうして山に登るの？」と聞くと、「そこに山があるから」という登山に関する最も有名な名言を残しています。私は登山家ではありませんが、趣味のひとつとしています。では、私はなぜ山に登るのかを改めて考えてみました。

第一の理由として、次の事柄を考えています。友人が言うように確かに登山には苦痛を伴います。しかし、その苦痛を乗り越え、登頂したときの喜びは、

まさに「百の頂きに百の喜びがあり」です。登り切ったという「達成感」「爽やかな疲労感」これが第一の理由です。

第二の理由は、山によって山頂の風景の美しさには違いがありますが、それを肌で感じるこゝろができるからです。しかし、私は「百の喜び」は山頂のそれだけではないだろうと思っております。その山々の登山道の険しさ、そうかと思うと、突然目の前に現れる広々とした湿原の美しさに癒やされたかと思うと、遠い昔に噴火して吹き飛ばされた後の荒々しい山肌の美しさに興奮し、一方で静かに可憐に咲く高山の花々に魅了される。こうした様々な様相を引くくるための「百の喜び」なんだろうと思います。

第三の理由は、そこに行かないと見ることができない風景があるからです。多くの山頂からは三百六十度の壮大なパノラマを見ることが出来ます。下界にいては絶対見ることができない風景です。例えば、昨年「会津

駒ヶ岳」に登ったときに途中で東北の最高峰である「燧ヶ岳」の荘厳な独立峰の姿を真正面で見ることが出来ました。下界ではあり得ません。その時、来年はあの山に登りたいと強く思いました。そして先日、夜中の三時に家を出て単独登山をしてきました。山頂から尾瀬沼を俯瞰できました。これもまた、そこに行かないと見ることができない風景です。私のこれまでの経験の中で最も難易度が高かったのですが、また来たいと思わせる変化に富んだおもしろい山でした。

私は、還暦を過ぎ、登山欲がますます旺盛になりました。明日天気がいいと分かると、家族にメモを残し突然でかける時もあります。

家族は心配しますが、もう暫くは登れるかなと、そばには常に「日本百名山」と「うつくしま百名山」の二冊を置き、次はどんな山に出会えるだろうと期待に胸を膨らませる毎日です。

新入会員の挨拶

何とかなるさ

これからはキリギリスの人生



安田 浩明

定年前の3年間は丸々コロナウイルス感染拡大に振り回される学校経営を余儀なくされました。そういう意味では、できなかったこと、やりたかったことがたくさんあり、やり残した気分で退職を迎えました。

だからといって、教育現場に残るといふ考えは、私にはありませんでした。もちろん、年金受給までの5年間、生活をどうするかという問題もあります。が、生来楽観的な私は、『何とかなるさ』といった思いで、『イソップ物語の「蟻とキリギリス」のキリギリスの人生をスタートさせることにしました。完全無職の日々をやりたいたことをやって過ごそうと決めたわけですが、そのような生き方を選んだのは、友人の医者から、『元気で動けるのはこれから十年だと思つて残りの人生を楽しんだ方がいい』というアドバイスを戴いたことが要因の一つです。

たしかに、早くに退職した母は、友人と国内外に頻繁に出かけては人生を謳歌していました。ところが、病気で体が不自由になってからは、自由に出かけることもままならず、亡くなるまでの約十年悔しい思いで余生を送っていました。

そんな母の生き方がロールモデルとなったのか、退職早々、4月には出雲大社へ、5月には台湾、6月には鎌倉・箱根と、自称「旅人」となって、旅を楽しんでいます。

また、楽しむためには気力と体力を維持したいという思いから、剣道の稽古とジム通いを、週2回ずつ自分に課しています。4月の頃は、筋肉痛のため、サロンプラスを貼ったり、整体に通ったりしましたが、徐々に体も慣れてきて、今はいい汗を毎日かいています。

日中は、可愛い飼育猫とマツタリとした時間を過ごし、読書をしたり、昼寝をしたりと、今のところは概ね思い描いた第二の人生となっています。

こうしたキリギリスの人生がいつまでも続いてほしいのですが、気力・体力もさることながら、財力の枯渇をどうするか。先のことはわかりませんが、今は『何とかなるさ』と自分に言い聞かせています。

自分の居場所探し



草野 和代

令和五年三月、「やり尽くした」という達成感をもって定年退職を迎えることができましたが、現在の私とは言え、自分の立ち位置を見いだせず、居場所探しをしているところです。

母と二人暮らしの私は、「家事」に追われることもなく、今のところ「介護」の必要もありません。四月より二本松一中で生活相談員をさせて頂いておりませんが、想定以上の時間的余裕の生かし方と職場における自分の存在意義を手探りしているというのが現在の状況です。週三〜四回の一日六時間勤務です。で、自分の時間は十分すぎるほどあります。しかし、限られた勤務時間の中で生徒を支えるための「連携」や「共通理解」を図るのは極めて困難です。先生方と話す時間がとれず、保護者

の顔が殆ど見えない中、目の前の生徒にとことん向き合い、関係の方々と少しでも会話のできる機会を探し出しながら、「小さな発信」を続けています。そして、「組織力」について改めて考えさせられています。

五月からは、月二回程度、市内の私立保育園での読み聞かせも始めました。一〜二歳児、三歳児、四〜五歳児を相手に、どう読めば楽しんでもらえるのだろうか、と、「予習」に多くの時間を費やし、幼児教育の書物を開くことも多くなりました。

とは言え、何とも収まりきれない中途半端な気持ちは拭えず、「何がしたいのか」、「何ができるのか」を自らに問い続けておられます。今後は、退職校長会の皆様のご活躍の様子に触れ、ご指導を仰ぎながら、自分の在り方についての方向性を見いだし、一歩一歩着実に進んでゆければと思っております。



クラブ活動の紹介

フォトαクラブ

写真十何でも可

令和三年四月三名で発足したフォトαクラブも三年目を迎える会員四名で、二か月に一度の例会を中心に活動をしています。写真に俳句を加えた作品や郷土の社寺などを調査し、写真と共にまとめた作品など多方面に亘りαの自由性や創造性を楽しんでいます。

コンパクトデジカメやスマートフォンなどの有無に関係なく、どなたでもクラブに参加して趣味を広げ、老後を健康で楽しく過ごして頂きたいと思えます。皆様のご参加をお待ちしております。年会費は、千円です。

※例会は、二ヶ月に一度・奇数月金曜日の午後二時



第4回総合文化・フォトα合同展(県男女共生センター)展示者

間を原則とし勤労者研修センターで行っています。

※作品の発表機会は、支部総会(四月)・現職校長との懇談会(十二月)に加え、地区文化団体(総合文化愛好会)との年二回の合同展(八月と三月の各二週間、県男女共生センター三階ロビー)です。第五回合同展は八月六日から二週間です、ご高覧をお願いします。

令和五年度支部役員

- | | |
|------|--------|
| 支部長 | ○伊藤 末吉 |
| 副支部長 | ○松浦 健二 |
| 監事 | ○佐藤 英之 |
| | ○角田 恒雄 |
| | ○小松 佑 |
| 顧問 | 安田 幹雄 |
| | 小島 喜一 |
| | 久保 恒義 |
| 理事 | 石川不二雄 |
| | ○菅野 藤雄 |
| | ○鈴木 則雄 |
| | ○佐藤 邦英 |
| | ○服部 健 |
| | ○服部 啓吉 |
| | ○宮前 貢 |
| | ○松井 義孝 |
| | ○菊池 勇人 |
| | ○松本 公秀 |
| | ○鈴木 一高 |
| | ○小池 重彰 |
| | ○渡辺光太郎 |

- 事務局長 ○高島 徹也
庶務 ○渡部 祐司

- 会 計 ○渡邊 健順
○小濱 伸

- 県評議員 ○紺野 宗作
伊藤 末吉

- 県理事 高島 徹也
安田喜市郎
原瀬久美子

(○は理事)

今年度は役員改選の年にあたり、四月十五日の総会において、以上のとおり新役員が選任されました。新役員一同本会発展のため一生懸命務めさせていただきます。

また、令和六年度には、第五十八回退職校長会二本松大会が開催されますので、会の成功に向け、皆様方のご支援とご協力をよろしく願います。

